

研 究 分 野	病理	部名	魚類部
研 究 課 題 名	海産魚類防疫対策事業		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H. 1 3 ~ H. 1 7		
担 当	松坂 洋		
協 力 ・ 分 担 関 係	家畜保健衛生所、(社)日本水産資源保護協会		

〈目的〉

海面増養殖での魚病発生時における早期の魚病診断並びに防疫指導の実施により、海産魚類で行われている増養殖の魚病被害の軽減と蔓延防止に努める。

〈試験研究方法〉

- ・ 魚病診断  
魚病発生時における魚病診断・検査による魚病対策の実施。
- ・ 防疫指導  
増養殖関係機関の巡回による防疫指導の実施。
- ・ 魚病情報収集  
魚病関連会議等の出席による情報交換および魚病情報収集。
- ・ 魚病技術研修  
海産魚類の魚病診断および病原体検査実施のための技術習得。

〈結果の概要・要約〉

- ・ 魚病診断  
今年度は合計 17 件の魚病相談、診断および検査を行ったが、細菌性疾病が 3 件、寄生虫症が 4 件見られ、エゾアワビ、ヒラメでは病原体を特定できない不明病が発生した。
- ・ 防疫指導  
県内の増養殖関連施設 23 ヶ所について巡回指導した。また、その際に水産用医薬品の適正使用の指導を行った。  
また、養殖場 4 ヶ所については薬事監視員とともに巡回した。
- ・ 魚病情報収集  
種々の魚病関連会議に出席し、情報交換並びに情報収集した。
- ・ 魚病技術研修  
特になし。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 平成15年度における魚病の魚種別、疾病別相談、診断件数について

魚種 疾病名	ヒラメ	クロソイ	マコガレイ	マダラ	ニジマス	キツネメバル	エゾアワビ	クロマガロ	合計
ビブリオ病									0
滑走細菌症			2						2
エドワジェラ症	1								1
イクテオボド症						1			1
ブルークリネラ症									0
マイクロチレ症									0
ペンネラ症								1	1
<i>L. skrjabini</i>		1							1
寄生虫症(未同定)		1							1
不明	2		1				3		6
その他	1	1		1	1				4
合計	4	3	3	1	1	1	3	1	17

〈今後の問題点〉

薬事法改正に伴い、水産用医薬品の使用基準も改正されたことから、関係業者への適正使用を徹底する必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

次年度も同様に実施する。

〈結果の発表・活用状況等〉

平成15年度魚類防疫体制整備事業地域合同検討会北部日本海ブロック